

## 主 文

本件各上告を棄却する。

## 理 由

被告人Aの弁護人高木一、同鈴木秀雄、斎藤真二、同安倍正三、同前田俊郎、被告人Bの弁護人鹿野琢見、同岩田洋明連名の上告趣意第一点は、憲法二一条、三一条違反をいうが、その実質は単なる法令違反の主張であり、同第二点のうち、当審判例（昭和二七年（あ）第六五九六号同三〇年一〇月一四日第二小法廷判決・刑集九卷一一号二一七三頁）との判例違反をいう点は、所論引用の判例は事案を異にし本件に適切でなく、原判決の無罪確定部分との判例違反をいう点は、その実質は事実誤認、単なる法令違反の主張にすぎず、その余の判例違反をいう点は、判例の具体的摘示を欠き、同第三点は、事実誤認、単なる法令違反の主張であり、同第四点は、量刑不当の主張であつて、いずれも適法な上告理由に当たらない。

被告人Aの弁護人前田俊郎の上告趣意は、判例違反をいうが、判例の具体的摘示を欠き、適法な上告理由に当たらない。

よつて、刑訴法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和六二年一月二一日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	林	藤 之 輔
裁判官	牧	圭 次
裁判官	島 谷	六 郎
裁判官	藤 島	昭
裁判官	香 川	保 一